

平成 30 年度 第 1 回川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会 会議録

日時 平成 30 年 7 月 12 日（木）14 時 30 分～16 時

場所 川口市議会第 3 委員会室

出席者 教育長

(委員) 利根会長 増田副会長 野口委員 原田委員 丸山委員
布施委員 後藤委員 寺久保委員 鈴木委員 山下委員

(アドバイザー) 岡村氏

(事務局) 古澤生涯学習部長 森岡文化推進室長 青木館長
立花室長補佐 中山主査 保坂主事

(運営支援) 丹青研究所 大木 外山

議事録

1 開会

2 委嘱書交付

3 教育長挨拶

4 自己紹介

5 会長・副会長選任

6 会長・副会長挨拶

7 諮問

8 議事

議題（1）「上位計画・関連計画等について」事務局より説明し、了承を得る。

議題（2）「今後のスケジュールについて」事務局より説明し、了承を得る。

議題（3）「基本調査等の実施について」事務局より説明し、了承を得る。

【質疑応答】

○参考事例調査について

(委員) 高崎市について 3 つの施設が調査対象である理由を伺いたい。

(事務局) 3 つの施設が高崎駅から 10 分から 15 分圏内に立地しており、機能分担のあり方について調査する。美術館類似施設アトリアとの併存を検討する上で参考にしたいと考える。

- (委員) 調査対象選定の視点のうち、③東京近郊に立地する施設や④市街地に立地する施設は本検討に重要といえるが、広い公園内に立地する府中市美術館の選定理由を伺いたい。また、市街地といっても各地で状況は異なるので、立地の特徴を整理するとよい。
- (事務局) 周辺環境等も含めて参考にしたいと考え、選定した。なお、建設地が特定されていない現時点では、周辺環境のあり方も含めて様々な可能性を検討したい。
- (委員) 調査対象が立地する自治体の人口も基礎情報として盛り込むべきである。
- (事務局) 調査内容に含める。
- (委員) 単独施設か複合施設の区別や、天井高や空調環境、照明の照度などの展示環境に関わる施設機能、レストランやカフェなど美術館の魅力につながる施設についても調査してほしい。
- (事務局) 調査内容に含める。
- (委員) 経営状況や事業評価の視点についても、情報収集するとよい。
- (事務局) 評価の視点を確認する。
- (委員) 運営するなかで見えてくる課題についても調査するとよい。失敗例も参考にすべきと考える。
- (事務局) 参考事例調査の結果を踏まえて、課題と思われる点についてはヒアリング等を実施していきたい。

議題（４）「意見交換」

【質疑応答】

- (委員) 美術館は作品も含めた、人間の活動が深く結びつく場であり、作品と来館者とが双方向に交流する場である。美術館は環境と切り離されたボックスではない。どのような作品を収蔵するかも大事だが、周辺環境とのつながりも大事である。人々の活動と美術とがうまくつながるような場になるとよい。
- (委員) 文化、芸術、美術という言葉の定義は弱い。昔は、芸術というと美術のことを指していた。観光とは、文化の光を見てくるということ。福沢諭吉が「国光発於美術」（国の光は美術に発す）という言葉を残しているが、光というのは過去を明らかにして、今を照らして、未来に光を当てるとのことだと考える。川口の光は何か。大きな志を持ち、新しい美術館のあり方にチャレンジするとよい。

日常の中で落ち着く空間は、神社・仏閣に存在すると思うが、居心地の良い場をコンセプトの中に入めると、新しい美術館の姿が見えてくると思う。日本ほど絵を描く人が多い伝統を持つ国はない。そのような文化を生かした美術館を目指すといい。

(委員) 川口のまちの良さは、肩ひじを張らない過ごしやすさがあること。人々が良いひと時を過ごせる美術館であるとよい。作品と観覧者との距離感が非常に近い海外の美術館のように、市民が気楽に構えずに立ち寄ることができ、さらに、学習などにも使いやすいなど、川口市の文化水準が向上するような施設となるとよい。

(委員) 気軽に利用でき、いつ訪れても楽しめ、何度でも訪れたい施設がよい。キーワードは「連携」だと思う。若い人、お年寄り、子育て世代、外国人、地域や他館との連携など、人と人をつなぐような施設であるとよいと思う。また、集客に向けた情報発信のあり方を探る意味でも、写真撮影の可否や、その施設を象徴するような撮影スポットの有無等についても、特徴的な取り組みを行っている美術館があれば調査してほしい。

(委員) 心が豊かになって、人々が元気になる施設であってほしい。ものづくりのまちから、いわゆる川口都民（東京都内に通勤・通学等をする市民）や外国からの移住者が増えるなど状況が変化するなかで、どのような川口市を目指すのがよいのか。市民アンケートの結果が楽しみである。

(委員) 美術館をまちなかに文化やアートを広げるための出撃拠点とするためには、交流や人々を惹きつける空間のほか、質の高い作品を鑑賞できる空間も必要である。最高の作品を鑑賞できる諸機能を備えることも必要と考える。

(委員) 市民が気軽に立ち寄れる施設が良い。近年では障害者によるアートや、環境をテーマにしたアートプロジェクトなど、市の政策に関連した展開も見られる。市民が川口市を誇りに思い、来訪者が面白い場所があるから川口に住みたいと思ってくれるような、楽しい雰囲気のある美術館となるとよい。

(委員) イニシャルコストやランニングコスト等も踏まえ、理想と現実のバランスを取りつつ、60万市民の理解を得られ、愛される施設が実現できるとよい。

(副会長) 美術館は観る側のものであり、管理する側のものである。それぞれの視点から、川口が求めるもの、「場所はどうか?」「作品は?」と、様々なことを検討すべきである。

(会長) 昨今では、行政が美術館をつくるというと、今さらとか、様々な意見があり、コストの話も避けることはできない。周辺に立派な美術館が多数あるという環境を踏まえると、市民が喜んでくれるような施設にしたいと思う。

(アドバイザー) 美術館や博物館は、その市の文化や歴史を伝える場であるが、本市にはどちらもない。市民にも、市外の人にも見せることができない。川口には優れた作品、鋳物や植木など優れた技術があることを、アピールすることが大事。ただ作品を見せるのではなく、埋もれている川口の文化を生かしつつ、新しい美術への挑戦もすべきだと思う。

(副会長) 新しいものと古いものの両方に目を向ける必要がある、という視点から美術館を検討してはどうか。

議題(5) 「その他」として川口市美術展と川口市の美術行政について、事務局より説明し、了承を得る。

【質疑応答】

(会長) アトリアの活動に対する市民の期待や意見について把握しているか。

(事務局) 来館者アンケートを実施しており、そこから意見等を抽出し次回以降に報告したい。

9 閉会